

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25380717

研究課題名(和文) 障害者の権利条約の実施過程の研究

研究課題名(英文) Research on the implementation of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities

研究代表者

長瀬 修 (Nagase, Osamu)

立命館大学・衣笠総合研究機構・教授

研究者番号：60345139

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間に締約国数が177に達した障害者権利条約の実施過程を明らかにし、その分析結果を迅速に国内外で社会的に還元することに努めた。実施過程を分析するために、この条約の国際的モニタリング機関である障害者権利委員会による建設的対話の傍聴を継続的に行った。重視したのは“Nothing About us without us”(私たち抜きで私たちのことを決めないで)という言葉で条約交渉中から繰り返され、条約に明記された障害者組織などの市民社会の参加である。委員会による事前質問事項作成や総括所見策定に関して、市民社会の障害者組織からの情報提供(パラレルレポート)の役割が非常に大きいことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research focused on the implementation process of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD) whose ratification reached 177 during the research period and shared its findings with the public widely. The researcher observed sessions of the CRPD Committee, that served as the international monitoring body of the CRPD paying special attention to the roles played by civil society, including organizations of persons with disabilities (DPOs). Participation by persons with disabilities was emphasized during the negotiation of the CRPD, expressed by “nothing about us without us”, and provided for in the text of the CRPD. The research found out that the information provided by the civil society and DPOs proved essential in the elaboration of List of Issues and Concluding Observations by the CRPD Committee.

研究分野：障害学

キーワード：障害学 人権 障害者 国際条約 市民社会 差別

1. 研究開始当初の背景

2006年に採択された障害者権利条約は、2011年に障害者権利委員会による審査が開始され、2013年の研究開始時点においては審査過程が開始されたばかりだった。個別の締約国への勧告である総括所見に加えて、特定の条文に関する解釈である一般的意見の採択もまさにこれから本格化しようとしていたという背景がある。

2. 研究の目的

2006年12月に採択され、すでに130以上の国と地域組織が批准を行い、日本が現在の障害者制度改革を通じて批准を目指している障害者の権利条約(Convention on the Rights of Persons with Disabilities)は、障害学(disability studies)を基盤とするものであり、その国内外での実施過程は、障害者の生及び障害学の理論と実践に大きな影響をもたらす可能性がある。

本研究では、同条約の国内外での実施状況と共に、障害学の理論の社会的な応用の有効性を明らかにする。予想される結果と意義としては、日本国内で進められている権利条約の批准に向けての制度改革と、国連のアジア太平洋障害者の十年の実施を通じたアジア太平洋地区をはじめとする、国際的な障害者の権利条約の実施との相互の影響を迅速に障害学の観点から明らかにし、日本社会及び国際社会への還元がある。(2013年4月「交付申請書」より)

3. 研究の方法

(1)内外の文献による研究、(2)障害者を含む専門家との研究会の開催、(3)障害者権利条約締約国会議(ニューヨーク)や障害者権利委員会(ジュネーブ)の傍聴、(4)学会、学会誌等での報告と成果物の出版。

4. 研究成果

障害学が提唱してきた障害の社会モデルと、その発展形である、障害者権利委員会が総括所見などで言及する障害の人権モデルは、障害者権利条約の実施において基盤として大きな役割を果たしていることが明らかになった。たとえば日本においても、批准に向けた制度改革の過程を通して、社会の障壁に着目する障害の社会モデルは広く知られるようになった。概念として社会モデルが定着することは、条約の成立以前には想像することが出来なかった。その実践には多くの課題はあるが、少なくとも用語と概念として行政を含め社会的な言及が飛躍的に増えた。また、研究期間終了時において、177の締約数に達した障害者権利条約の実施は、締約国、そして当該締約国においても分野によって大きなバラツキがあることが明らかになった。そして他の条約と比べても、直接影響をうける層、すなわち障害者を代表する組織と市民社会の条約実施とモニタリングにお

ける役割の大きさが把握された。

本研究の成果を論文や講演、ワークショップという形で積極的に国内外において広範な社会的還元が行われた。また、まったく想定外だったが、2017年に実施された中華民国(台湾)の国連システム外での独自の障害者権利条約初回審査に、英国、カナダ、スウェーデン米国の専門家と共に携わるという機会(研究代表者は国際審査委員会委員長を務めた)においても、本研究の知見を最大限に活かすことができた。

今後の展望としては、歴史的・文化的な背景もあり、政策面においても共通の課題を共有する他の東アジア諸国・地域(韓国、中国、香港、マカオ、台湾、モンゴル等)における条約実施、特に障害者組織をはじめとする市民社会の役割について、いっそう明らかにする必要がある。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 58件)

- 1 長瀬修、合理的配慮 - 起源、展開、射程、障害学研究、査読無、13号、2018、94-107
- 2 長瀬修、障害者権利条約中華民国(台湾)初回報告総括所見(上)、福祉労働、査読無、158号、2018、142-149
- 3 長瀬修、台湾の建設的対話と総括所見、福祉労働、査読無、157号、2017、110-111
- 4 長瀬修、台湾の障害者権利条約審査 パラレルレポートとワークショップ、福祉労働、査読無、156号、2017、108-109
- 5 長瀬修、障害者権利委員会 - その構成と役割、すべての人の社会、査読無、37巻6号(447号)、2017、4-5
- 6 長瀬修、台湾(中華民国)の障害者権利条約審査、福祉労働、査読無、155号、2017、100-101
- 7 長瀬修、国際的障害者組織とSDGS - 国際障害者同盟の取り組み、ノーマライゼーション、査読無、37巻6号、2017年、24-25
- 8 長瀬修、追悼 ベンクト・リンクピスト(1936-2016)、福祉労働、査読無、154号、2017、106-107
- 9 長瀬修、障害者権利条約と障害者差別解消、LD研究、査読無、26巻1号、2017、56-63
- 10 長瀬修、障害者権利委員会第17会期の概要と特徴 カナダの審査、DPI、査読無、32巻4号、2017、38-41
- 11 長瀬修、イタリアの審査と女性障害者(第6条)、DPI、32巻3号、2016年、43-45
- 12 長瀬修、東アジアの障害学国際セミナー2016 - 台湾の新たな参加、福祉労働、査読無、153号、2016、136-137
- 13 長瀬修、相模原障害者殺傷事件 - 海外からのメッセージ、福祉労働、査読無、152号、2016、118-121
- 14 長瀬修、障害者権利条約第9回締約国会議 障害者権利委員会委員選挙2016、ノーマライゼーション、査読無、36巻9号、2016、

- 45-47
- 15 長瀬修、知的障害とセルフアドボケート、障害者と障害当事者、福祉労働、査読無、151号、2016、124-125
 - 16 長瀬修、障害者権利条約における『言語』の定義の交渉過程、リハビリテーション研究、査読無、46巻1号、2016、4-9
 - 17 長瀬修、国際育成会連盟の最近の動き、手をつなぐ、査読無、723号、2016、40-41
 - 18 長瀬修、NGOレポート作成に向けて、DPI、査読無、32巻1号、2016、22-23
 - 19 長瀬修、障害者権利条約と障害者差別解消法、改正障害者雇用促進法、作業療法ジャーナル、査読無、500巻5号、2016、460-464
 - 20 長瀬修、「合理的配慮」を促す障害者差別解消法、4月施行前に 展望と課題 共に働き、生きる社会は建設的対話が第一歩、公明、査読無、123号、2016、50-55
 - 21 長瀬修、持続可能な開発目標（SDGs）と障害 第54会期社会開発委員会パネル、福祉労働、査読無、150号、2016、88-89
 - 22 長瀬修、第14会期障害者権利委員会(下) - ケニアの総括所見を中心に、DPI、査読無、31巻、2015、41-43
 - 23 長瀬修、障害者権利委員会選挙 - 第9回締約国会議、福祉労働、査読無、149号、2015、136-137
 - 24 長瀬修、第14会期障害者権利委員会(上) - ケニアの総括所見を中心に、DPI、査読無、31巻、2015、37-39
 - 25 長瀬修、合理的配慮、公民権運動、アフリカ諸国の独立 キング、ムボヤ、ケネディ、オバマ、福祉労働、査読無、148号、108-111
 - 26 長瀬修、障害者権利条約第8回締約国会議 開発と障害者の人権、ノーマライゼーション障害者の福祉、査読無、35巻、2015、46-48
 - 27 長瀬修、障害者「安楽死」計画の記憶 新たな記念碑、福祉労働、査読無、147号、2015、114-115
 - 28 長瀬修、被後見人の選挙権回復が表彰ウイーンでのゼロプロジェクト 2015会議、ノーマライゼーション障害者の福祉、査読無、35巻、2015、52-54
 - 29 長瀬修、障害者権利条約批准後の課題と合理的配慮 要約筆記はアクセシビリティか、合理的配慮か、要約筆記問題研究、査読無、26巻、2015、3-7
 - 30 長瀬修、台湾と障害者権利条約の実施 独自の取り組み、福祉労働、査読無、146号、2015、112-113
 - 31 長瀬修、第1回政府報告と障害者組織の関与の重要性、DPI われら自身の声、査読無、30巻、2015、43-45
 - 32 長瀬修、障害者権利条約の具現化に向けて、理学療法ジャーナル、査読無、49巻、2015、109-115
 - 33 長瀬修、障害者権利条約実施 批准後の課題、部落解放・人権入門 2015、査読無、704号、2015、87-95
 - 34 長瀬修、竜頭蛇尾、戻れない道 - 中国での障害者権利条約実施、福祉労働、査読無、145号、2014、122-124
 - 35 長瀬修、障害者権利条約実施の課題、手話通訳問題研究、査読無、129号、2014、47-54
 - 36 長瀬修、テレジア・ゲデナー 障害の人権モデルへ、福祉労働、査読無、144号、2014、82-83
 - 37 長瀬修、自立しているけど、一人ぼっちじゃない：決める権利に関するグローバルレポート、DPI われら自身の声、査読無、30巻、2014、37-39
 - 38 長瀬修、障害者権利条約第7回締約国会議 日本は初めて締約国として参加、ノーマライゼーション、査読無、34巻、2014、42-44
 - 39 長瀬修、差別禁止・合理的配慮とアクセシビリティ 障害者権利条約から、福祉のまちづくり研究、査読無、16巻、2014、1-5
 - 40 長瀬修、障害者権利条約と法的能力 中国の審査から、福祉労働、査読無、143号、2014、106-107
 - 41 長瀬修、障害者の権利に関する委員会、DPI われら自身の声、査読無、30巻、2014、38-40
 - 42 長瀬修、障害者権利条約実施 - 批准後の課題、月刊福祉、査読無、97巻6号、2014、18-22
 - 43 長瀬修、私たちが変える、私たちが変わる、みみ、査読無、143号、2014、34-35
 - 44 長瀬修、「締約国」- 変わることに変わらないうこと、ノーマライゼーション、査読無、34巻1号、2014、52
 - 45 長瀬修、障害者の権利委員会 オーストラリア第1回報告への質問事項(3)、DPI われら自身の声、査読無、29巻4号、2013
 - 46 長瀬修、障害者の権利条約実施 批准後の取り組み、福祉労働、査読無、141号、2013、78-88
 - 47 長瀬修、障害と開発ハイレベル会合(HLMDD)に参加して、ノーマライゼーション、査読無、33巻12号、2013、21-22
 - 48 長瀬修、障害者の権利条約と中国 市民社会の取り組み、福祉労働、査読無、140号、2013、92-93
 - 49 長瀬修、障害者の権利委員会 オーストラリア第1回報告への質問事項(2)、DPI われら自身の声、査読無、29巻3号、2013、35-37
 - 50 長瀬修、国連障害者の権利条約の動向、発達障害白書、査読無、2014年版、2013、165
 - 51 長瀬修、障害者の権利委員会 オーストラリア第1回報告への質問事項(1)、DPI われら自身の声、査読無、29巻2号、2013、37-39

- 52 長瀬修、国際育成会連盟の最近の動き、手をつなぐ、査読無、2013年7月号 689号、2013、44-45
- 53 Nagase Osamu、Challenges of the Harmonization and Ratification Convention on the Rights of Persons with Disabilities by Japan、Journal of Policy and Practice in the Intellectual Disabilities、査読無、June 2013、2013、93-95
- 54 長瀬修、中国の障害者と市民社会 - 平和のための協力、福祉労働、査読無、139号、2013年、102-103
- 55 長瀬修、南アジア太平洋障害者の十年の課題、手をつなぐ、査読無、2013年5月号(687号)、2013、44-45
- 56 長瀬修、障害者の権利委員会第8会期中国への総括所見(3)、DPIわれら自身の声、査読無、29巻1号、2013、36-38
- 57 Nagase Osamu、Deprivation of voting rights found unconstitutional in Japan、Human Rights Publication Series-The Right to Vote and to Stand for Election、査読無、issue 1、2013、57-58
- 58 Nagase Osamu、The vocational rehabilitation system in Japan、Journal of Vocational Rehabilitation、査読有、38(3)、2013、169-183
- [学会発表](計 19件)
- 1 長瀬修、障害者権利条約とパラレルレポートの役割、障害者権利条約ワークショップ、2018
- 2 長瀬修、中華民国(台湾)における、障害者権利条約の審査について-2020年日本初回審査への教訓という観点から、日本障害フォーラム(JDF)全国フォーラム、2018
- 3 長瀬修、CRPD Implementation and Civil Society(障害者権利条約実施と市民社会)障害者権利条約実施ワークショップ、2017
- 4 長瀬修、Sagamihara Killing and Challenges of Community-living(相模原殺傷事件と地域生活の課題)中国障害者政策セミナー、2017
- 5 長瀬修、CRPD and Bhutan-For the promotion of disability policy and rights in Bhutan、Bhutan CRPD Promotion Workshop、2017
- 6 長瀬修、Sagamihara Tragedy and Challenges of Community-living、2017 IASSIDD 4th Asia Pacific Region Congress、2017
- 7 長瀬修、Building Self-advocacy Capacity for People with Intellectual and Developmental Disabilities in the Asia/Pacific Region、2017 IASSIDD 4th Asia Pacific Region Congress、2017
- 8 長瀬修、What is independent living based on the CRPD、2017 International Conference and workshop on independent living and personal assistance: Self-determination and User Control、2017
- 9 長瀬修、家族と障害者権利条約、台湾社会学会大会、2016
- 10 長瀬修、障害者権利条約起草者との会話、第8回国際障害法サマースクール、2016
- 11 長瀬修、国際的視点と経験:障害者権利条約と日本の国内措置、障害者権利条約国際会議、2015
- 12 長瀬修、障害者権利条約と知的障害者世界、アジア太平洋、中華民国智障者家長総会主催、障害者権利条約と分かりやすい情報セミナー、2014
- 13 長瀬修、障害者権利条約の批准から見る障害者福祉施策の方向性、平成26年度全国社会就労センター総合研究大会、2014
- 14 長瀬修、障害者権利条約批准後の課題、第32回要約筆記問題研究会、2014
- 15 長瀬修、日本の障害者運動と障害者組織の発展、中国知的発達障害ネットワーク2014大会講演、2014
- 16 長瀬修、障害者:社会と文化、多文化共生を考えるコミュニティ支援のための公開セミナー、2014
- 17 長瀬修、Present Situation of Japanese Disabled People- What I have been learning(日本の障害者の現状 私が学んできたこと)第5回中国国際障害学生統合教育・雇用フォーラム/武漢若年障害者研修会、2013
- 18 長瀬修、Affirmative Action (Quota) and Prohibition of Disability Discrimination - New Development in Japan(積極的差別是正措置と障害差別禁止-日本の新たな展開)第5回中国国際障害学生統合教育・雇用フォーラム/武漢若年障害者研修会、2013
- 19 長瀬修、Challenges of CRPD Harmonization and ratification by Japan(日本による障害者権利条約の実施と批准の課題)第3回アジア太平洋発達障害会議教育講演第5回中国国際障害者統合教育・雇用フォーラム/武漢若年障害者研修会、2013
- [図書](計 5件)
- 1 長瀬修、国民教育文化総合研究所、分けないから普通学級のない学校 カナダBC州のインクルーシブ教育、2014、78(59-72)
- 2 長瀬修、Routledge、Crises, Conflict and Disability Ensuring equality、2014、239(142-146)
- 3 長瀬修、明石書店、障害者自身が指導する権利・平等と差別を学ぶ研修ガイド障害平等研修とは何か、2014、83(74-79)
- 4 長瀬修、法政大学出版局、歴史のなかの障害者、2014、342(1-4)

- 5 長瀬修、韓国障害者開発院、「人権保障」
『東アジア障害者福祉政策比較研究』、
2013、345 (338-345)
- 6 . 研究組織
(1)研究代表者
長瀬 修 (NAGASE, Osamu)
立命館大学・衣笠総合研究機構・教授
研究者番号：60345139